

第 4 回 鎌倉市地域拠点校選定委員会 議事要旨

1. 開催日時

平成 28 年 1 月 16 日（月）9 時 00 分から 11 時 00 分

2. 開催場所

鎌倉市役所 第 3 分庁舎 1 階 講堂

3. 出席者等

【委員】

志村直愛委員長
石渡好行副委員長（欠席）
伊藤甲之介委員
倉斗綾子委員
林誠之介委員
坂本工委員
杉山恵子委員（欠席）
中村正裕委員
井上全信委員
岩佐勝司委員（欠席）
山ノ上喜一郎委員

【事務局】

比留間彰（経営企画部長）（欠席）
大隅啓一（経営企画部次長）
佐々木聡（経営企画部経営企画課担当課長）
鈴木康之（経営企画課課長補佐）
石塚智一（経営企画課公共施設再編推進担当
担当係長）
坪田慎介（経営企画課公共施設再編推進担当）

【傍聴者】

2 名

【幹事】

奈須菊夫（地域のつながり推進課長）（欠席）
廣川 正（こどもみらい課担当課長）（欠席）
栗原章郎（保育課長）
瀬谷公重（青少年課長）
小宮 純（高齢者いきいき課担当課長）
八神陽介（教育部次長）
朴澤徹範（教育総務課担当課長）
濱本正行（学校施設課長）
菊池 隆（中央図書館長）

4. 次第

- 1 開会
- 2 報告
 - (1) 前回議事録について

3 議題

(1) 地域拠点校選定の考え方（素案）について

4 その他

5 閉会

5. 報告

(1) 前回議事録について

事務局 【資料 1 第 3 回鎌倉市地域拠点校選定委員会議事要旨（案）について説明】

志村委員長 議事録についてはよろしいか。

全委員 （異議なし）

6. 議題

(1) 地域拠点校選定の考え方（素案）について

事務局 【資料 2 地域拠点校選定の考え方について説明】

【資料 3 （参考）学校施設の更新スケジュール検討について説明】

志村委員長 今回は、パブリックコメントにかける素案についての議論が最大の目的となる。前回までの議論と定量的な評価をベースにした各学校の評価をもとに、一次抽出を行い、さらにその抽出結果から優先的に検討を進める学校を定めるまでとする取りまとめ方で、事務局から候補校が示された。この素案について、意見、あるいは質問があれば伺いたい。

山ノ上委員 資料 2 の 5 ページに掲載されている学校の配置状況などについての図表に、地域毎の学校、児童・生徒数が示されているが、例えば山崎小学校に通っている児童 700 人のうち 500 人が大船地域に住んでおり、そのようなことが把握できていないように見える。他の地域でも同様のことがあると思うので、勘違いをおこさせないためにも、備考欄を設けるなどして、そのようなことがあることを記載したほうが良いと思う。

事務局 データを確認して、整理したい。

山ノ上委員 最後に 1 校が選別されていて、すでに地域拠点校が決められているように見える。この後、市民の意見を聞くということだが、このまま見ると、結論ありきで議論が進んできたように誤解を招く。パブリックコメントには、一次抽出のところまでに留めたほうが良いのではないか。今のままでは、委員の意見も反映されておらず、また、市民の同意が得られないと思う。

事務局 これまで示してきた定量的な評価をベースに行った一次抽出から、さらに優先的に検討を進める学校を選定した。パブリックコメントの対象をどこまでにするのかについては、今回の委員会で議論を踏まえて判断する必要があると思う。ただし、これまで委員会でも地域拠点校を選定するという方向性で議論いただき、市としてはいくつかの条件から優先となる学校を挙げているところであることを踏まえて、委員会でご議論いただきたい。

志村委員長 他の委員の意見はどうか。

- 倉斗委員 優先的に検討を進める学校の選定に留め、最終的な決定は地域での議論を踏まえて行うことは理解した。ただし、具体的に、スケジュール、決定する方法や検討に当たっての宿題を提示できるとわかりやすいものになると思う。
- 志村委員長 宿題が多数あることも大事だと思う。優先的に検討を進める学校の選定に留めることについて、学校現場の意見を聞きたい。
- 坂本委員 優先的に検討を進める学校の選定が進められているが、様々な状況の変化を考慮し、変更の余地があるものとなっており、具体的な決定については、先の話になるのだと理解している。
- 前回委員会の後、校長会で議論を行った。その中で、文中にある「教育環境の維持」とあるが、学校が複合化された場合でも、学校教育環境の維持のためには、現状のグラウンドの広さを維持してもらう必要があるという意見があった。維持できないと、部活動にも影響が出てしまうため、要望してほしいとのことであった。
- 中村委員 小学校の校長会でも否定する意見は出なかった。グラウンドの確保の要望はあった。また、小学校の場合、地震や津波をどのようにクリアしていくのかを大事なため、そこの検討をきちんとしてほしいとの意見があった。
- 今回、優先的に検討を進める学校の選定に留めてもらうのはありがたいなど思う。現在、市で進めている本庁舎の整備や深沢地域整備事業の動向もみながら、決定のための取組を進めていく必要があると思う。
- 志村委員長 現状では最終決定はできないが、現状を踏まえたなかで優先となる学校を選定していく必要はあるのだと思う。ただし、山ノ上委員から指摘があったように、既に決定したと誤解されないように、表現について注意が必要である。
- 山ノ上委員 この委員会での議論はいつまでなのか。
- 事務局 本年度中一杯を期限と考えている。具体的には3月17日に予定している次回の委員会で市に対する提言としてまとめていただきたいと考えている。
- 山ノ上委員 各委員は全25校を見ているのか。
- 事務局 全校は見っていないが、玉縄地域において学校及び関連する公共施設の見学会を実施している。
- 山ノ上委員 ここでの議論は、孫の代まで影響するものであり、机上の議論だけでは足りないと思う。委員にはすべての学校を見学する機会を設けたほうが良いと思うが、いかがか。例えば、教育委員会から見学の許可証を発行してもらえれば、各委員が都合の良いときに見に行くことも可能となる。
- 事務局 委員会からの要望があれば対応する。ただし、これまで、段階を踏まえて学校を絞ってきた状況であるため、対象になっている学校でも良いのではないかなと思う。
- 山ノ上委員 学校の建物の立地、周辺状況などは、全校見て確認したうえで、委員会で決定すべきであると思う。
- 志村委員長 今回、優先的に検討を進める学校の選定に留め、市民の意見を取り入れる余地を残せることになった。具体的に決めていく段階では、地域での議論を行う

ためにも、地域ごとに各学校の様子を見る必要があると思う。ただし、この委員会は選定のための第一歩であるため、今の進め方で良いのかなと思う。

井上委員 現段階でのスケジュールでは、これから見に行くというのは難しいと思う。また、一回見に行ったからといって、地域の雰囲気も含めてわかるというものでもないと思う。

優先となる学校を選ぶに留め、今後、地域の人の意見を聞きながら検討を行っていくことは必要な手順だと思う。

志村委員長 この委員会ですでできなかった議論や検討については、巻末にも是非載せてもらいたい。44 ページの今後の進め方にでも、今後の検討に当たっての留意事項を記述できると良いのではないか。例えば、広報のこと、住民を巻き込むこと、学校教育環境の維持、グラウンド、駐車場のことなどを箇条書きにでも示せると、今後の検討の課題が明確になり、市民の皆様も不安が減らせるのではないかと思う。

伊藤委員 私的な感覚で、自家用車の利用は大事な要素になると思う。また、先ほどグラウンドの話がでたが、敷地面積は拠点校を考えるにあたって重要なファクターになると思う。

また、玉縄地域で一次抽出された3校のうち、関谷小学校は行きにくい場所にあるため、他の2校と並べられるのをみて違和感をもっていた。

志村委員長 39 ページの土砂災害警戒区域の図表に書いてある、1、12 はどういう意味か説明がないのでわからない。掲載する以上は、抜粋であってもわかるようにしたほうが良い。

倉斗委員 優先的に検討を進める学校について、説明があったほうが良いと思う。また、選んだ経緯がわかるようにしたほうが良い。物理的条件をもとに学校を選定したことや、決定でないことも理解できる。

志村委員長 優先的に検討を進めなければならない学校なのか、進めたほうが良いと思う学校なのかのどちらにも読めてしまうので、誤解のうまれないように説明があると良い。

山ノ上委員 大船中学校が借地ということで、候補から外れているが、条件的には良いがこうだと思う。いくらぐらいで借りているのか。良い場所にあるので、地域拠点校にはできないのか。

坂本委員 大船中学校の用地は、学校用地として国から借りているものであり、他の用途の施設には使えないという契約になっている。

学校施設課長 大船中学校については、年間約2,154 万円で借地を行っており、現行契約は平成56 年までである。ただし、契約額については3 年に一度見直している。

山ノ上委員 他の施設も建てられるよう、契約の変更は難しいのか。

教育部次長 用途は中学校に限定されており、建替えの際に小学校との合築等の検討も行ったが、条件的に難しいとの結論であった。他の施設も認められないということで、既存であった施設も別に移した経緯もある。

志村委員長 素案について、このまま公表しても問題ないか委員の意見を確認したい。

- 中村委員 42 ページから 44 ページにかけて、候補が挙げられているが、このうち腰越地域と大船地域については、地域の人々にとっても納得しやすい結果になっていると思う。鎌倉地域については、意見が分かれる内容になっており、玉縄地域については、地域の人々は玉縄小学校が妥当という感覚を持っているのではないかと思う。深沢地域については、深沢小学校が候補になると思うが、現状で児童数の少ない富士塚小学校を挙げる意見もあると思うので、深沢地域整備事業の進み方次第のようなコメントも入れても良いのではないかと思う。
- 井上委員 児童、生徒の安全を考えて、駐車場をつくらないという前提であれば、徒歩圏となる 800Mでは市域全体をカバーできないことになり、使える人が限られることになる。徒歩を前提とするのであれば、会議室を提供するなど、地域拠点校以外の学校も地域で使えるようにしたほうが良いのではないか。ただし、セキュリティの問題もあるので、各学校の建て替え等にあわせて対応していくのが望ましいのではないかと思う。
- 素案の各地域のうち、鎌倉地域では御成小学校が挙げられているが、市役所、学習センターがあり、周辺に公共施設が集まり過ぎることになってしまう一方で、第二小学校や第二中学校のほうには何も無くなってしまっているのではないかという感想がある。
- 志村委員長 前日も議論になったが、地域拠点校とそれ以外の学校の関係については、検討すべき事項であると思う。防災安全と交通至便性という鎌倉では相反することになる条件についても整理する必要があると思う。
- 事務局 学校間格差の解消に向けた検討が必要となるが、学校との調整が必要になることであるので、今後教育委員会等とも連携していきたいと思う。
- 車の利用については、バス路線の変更等を含めて交通については解決を図っていく必要があると思う。
- 施設に係るコストを半減していくことを目指して公共施設再編計画を策定しており、各行政サービスについてできるだけ継続していくためにも、サービスのあり方について利用者等に理解していただく必要がある。このような背景の中、この取組が進められていることを周知しながら、進めていきたいと考えている。
- 山ノ上委員 4つの行政センターは廃止の方針と聞いているが、そこに付属されている学習センターはどうなるのか。
- 事務局 学習センターの機能は、地域拠点校に入る計画である。
- 山ノ上委員 相当大きなものになるのではないか。
- 事務局 複合化される施設については、2,000 m²程度を想定している。
- 山ノ上委員 売却した資金は活用できるのか。
- 事務局 売却や、民間への貸出による収益を活用できるものと考えている
- 志村委員長 これまでの答弁はおそらくパブリックコメントでも繰り返されることになると思う。先ほど説明のあった交通のことなど、支障のない範囲で記述してもらいたい。

また、背景と目的を読んでも、危機感を感じることができない。いかに厳しい状況にあるのかを市民に理解してもらうためにも、厳しいことを書いても良いのではないかと思う。この取組自体が、マイナスのところから始まっていることを知ってもらったほうが良い。

中村委員

整備の話を始めると夢を語ってしまうが、お金があって夢のある地域をつくることではなく、このままだと鎌倉市が生き残れないこと前提があって、そのなかで夢のあるまちにしていく工夫をしていこうという意味を示すことも大事だと思う。

倉斗委員

1 ページにこれまでの 2.8 倍の予算が必要になることが書いてあるが、あくまでも現状の予算を維持できたとする前提がある。その前提も難しい状況であると思う。そのような状況であることを、市民とも共有していく必要がある。ワークショップでも、危機感を共有できると、みんなで同じ方向に進むことができる傾向にある。

志村委員長

大変な状況であることを、地域に周知していける良い機会になると思うので、危機感をうまく伝えられると良い。

山ノ上委員

財政の半分は福祉で、今後高齢化進むとますますその割合が増えると聞いているが、そのことを書いたほうが、市民へのインパクトがあるのではないかと思う。

志村委員長

どの年代の方が読んでも、伝わりやすいように表現を工夫してほしいと思う。先ほど上がった防災対策と至便性について、どちらの側面も重要な要素であり、その調整が必要であると思う。

山ノ上委員

大船小学校は、駅近であるが、住宅密集地に立地しており、周辺の道路も狭く、火災等に対して課題がある。

志村委員長

指摘いただいたように、学校は住宅密集地にあることが多い。各課題については、どのような配慮が必要となるのか整理し、そのような条件を踏まえて選んでいることを示したほうが良い。

山ノ上委員

先ほど話題に上げた学校の見学について、許可証の発行は難しいのか。建物の状況、敷地の状況や周辺環境を確認する必要があると思う。

教育部次長

見学してもらうことは可能だが、教育委員会への事前の連絡が必要となる。

志村委員長

今のステージでは、見学した上での各委員からの意見を反映するのは難しい。次のステージで、具体的な検討を行うにあたってみてもらったほうが良いと思う。

林委員

委員会を設置したことや、議論の過程は掲載しないのか。

事務局

最終的には取組の経緯を掲載する予定であるが、素案の段階で掲載するかは整理する。

林委員

文言でいくつか気になるところがあるが、どのように伝えれば良いか。

事務局

文言等で気になるところがある場合は、1月20日までにご連絡いただきたい。

中村委員

パブリックコメントのスケジュールを確認したい。また、パブリックコメントの回答形式はどのようなものか。

- 事務局 パブリックコメントは、意見公募の条例に基づくもので、2 月中に実施したいと考えており、次回委員会ではその結果を報告する予定である。
また、自由記述となっている。
- 倉斗委員 素案の冊子はどこで見られるのか。ホームページに掲載されるのみか。
事務局 ホームページで見られるほか、本庁舎、生涯学習センター、支所、図書館に冊子を置く予定である。なお、募集していることは広報誌にも掲載する。
- 井上委員 地区の懇談会でこの取組を紹介すると、一方はまったく知らないという反応があり、一方では先のことでしょという極端な反応が多数あった。どちらも望ましいものではないと思う。再編の取組も含めて、周知の仕方を工夫したほうが良い。
- 志村委員長 今後の進め方について示さないと、市民はこの素案の位置付けがわからない。
山ノ上委員 パブリックコメントに合わせて、自治会町内会の連合会への説明の機会を作ってほしい。これまでの市の取組でも、説明の機会を設けず、周知の仕方を失敗している例も散見されるため、注意してほしい。
- 志村委員長 市民に後押ししてもらうためにも、この取組を丁寧に周知していただくほうが良い。
- 中村委員 パブリックコメントに合わせて、保護者や自町連に伝えていってほしい。協力できることは協力する。
- 山ノ上委員 今回の資料を民生委員 200 人に流してもかまわないか。
事務局 委員会は公表を前提としており、ぜひとも、周知していただきたいと考えている。
なお、説明する際には、言葉の表現で受け止め方が変わってしまうので、資料をもとに説明いただきたい。また、説明の要望があれば、対応したい。
- 志村委員長 今回、各委員からの指摘を踏まえて、事務局のほうで修正することになると思うが、今後のスケジュールのこともあり、修正内容の調整については委員長預かりとし、進めさせていただいて良いか。
- 全委員 (異議なし。)
事務局 素案の中で、指摘事項がある場合は、1 月 20 日までにご連絡いただきたい。

(2) その他

- 志村委員長 その他、事務局からなにかあるか。
事務局 次回の委員会開催予定は下記のとおりである。
第 5 回：平成 29 年 3 月 17 日（金）午後 3 時～5 時 第 3 分庁舎 講堂